

史料群番号 59

史料群名	あしたかまるかつおつり 愛鷹丸鰹釣資料(中野傳兵衛家文書)	旧所蔵者	(中野傳兵衛)
採訪時住所	(静岡県志太郡焼津町)		
現在の住所	静岡県焼津市北新田		
採訪年月	不明		
史料の年代	天保3(1832)年~大正10(1921)年	史料の総点数	58点
年代の内訳	近世 1点/近代57点	筆写稿本	なし
既刊行目録	なし		

収蔵にいたる経緯

明治42年進水の愛鷹丸の船元は中野松之助(焼津漁業史)。恐らく中野松之助家に伝来する文書であろう。神奈川大学日本常民文化研究所に事業の2年目にあたる昭和25年度末に出された「調査保存事業成績報告」と題する資料があり、整理史料の内訳が記載されており、「焼津町柳町立浜通 中野傳兵衛家文書」とある。恐らく同一史料群であろう。

史料群の概要

採訪地の焼津町北新田については「瀧口猪之助家文書」の項参照。
 天保3年「職人日雇書附帳」の1点を除いて残る全ては大正10年までの近代文書である。史料の大半は鰹釣船である東海遠洋漁業会社所属愛鷹丸の「水揚帳」「入用帳」などの各種の経営帳簿である。特に明治37年~大正10年までの愛鷹丸の水揚に関する帳簿は、ほぼ毎年残されており、この時期の焼津鰹釣り船の経営の様相を知るためには不可欠の史料であろう。
 愛鷹丸は通称「デンベイヤ」といわれ、江戸時代から鰹釣りの船として操業していた。明治39年の焼津初の動力船「富士丸」の操業に始まる動力船化の波の中で、愛鷹丸も石油発動機船となった。この頃から焼津の漁は、駿河湾一帯だけでなく、遠く八丈島付近まで拡がっている(焼津漁業史)。

